



奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために
RI会長 シェカール・メータ

2021-2022年

Rotary District 2640 Japan

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST



海南東ロータリークラブ

会長 魚谷 幸司 幹事 宇恵 久視 SAA 楠部 均

第 2076 回例会

2021年11月8日(月)

海南商工会議所 4F 12:30～

お誕生日、結婚記念日のお祝い

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 「我等の生業」
3. ゲスト紹介
海南市消防長 竹田 正樹 様
米山記念奨学生 庄 秀 様
4. 出席報告
会員総数 41 名 出席者数 24 名
出席義務規定適用免除会員 1 名
出席率 61.54% 前回修正出席率 61.54%

5. 会長スピーチ 会長 魚谷 幸司 君

皆様こんにちは。本日のゲスト、海南市消防長の竹田正樹様に来て頂いております。後ほど卓話を頂きたいと思っております。もう一人米山奨学生の庄秀さんにも着て頂いております。ようこそお出で下さいました。後ほど挨拶を頂きたいと思っております。



昨日ですが宇恵幹事と地区立法案検討会に出席してきました。その報告をさせていただきます。まず、2020～2021年度の地区財務報告が採択され、2024～2025年度ガバナー選出方法が採択された後、規定審議会の委員に藤井パストガバナー、中野パストガバナー、檜畑パストガバナー、福井パストガバナー、岡本パストガバナーの5人が選出されました。

その後報告事項として岡本パストガバナーよりSRF（ロータリー未来形成）についてのお話があり

ました。現状はロータリアン→ロータリークラブ→地区があり、理事会と規定審議会に分かれます。地区はRIを形成する基盤組織として存在し、地区は賦課金により独自の資金を保有可能となっています。また地区はRIに対等、独自の意思表示が可能となっています。

新しい提案ではロータリアン→ロータリークラブ→セクション→リージョンという構成にし、リージョン（日本）やセクション（日本を102に分割）はRIに対し対等な立場に立てないことが起こります。また、民主的な選出過程を経ないGlobal Volunteer Cadre（幹部）なる者への権限を付与するといったものです。これにより、RIの中央集権化、世界的な寄付集約等には好都合な組織へとなり、自治的権限を持つ地区的組織の喪失、経験の蓄積・研修機能等を失いロータリーの魅力が低下するのでは？という意見を出されておりました。

また、新提案に断固反対と言われておりましたが、世界から見た時、日本のロータリアンは10%以下であり、数の多い国を取り込まれるとどうなるのかという危惧を示されておりました。

その後青少年交換事業（今年度は行われぬ）についての説明、公共イメージ向上事業「ストリートピアノ」設置事業を考えている旨、青少年・RYLA委員会より2022年4月29日～5月1日の予定で白崎青少年の家で「生存・生き残るため」というテーマにて行われることの報告がありました。今回は20歳以上とし、25名程度で考えておられるようです。クラブとして推薦できる人でロータリアンの子供さん、お孫さんなど募集されておりましたのであてのある方はご一考ください。

6. 幹事報告 幹事 宇恵 久視 君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山城南 RC 11月25日(木)→11月25日(木)
18:30～ ルミエール華月殿
会員忘年例会)

○例会休会のお知らせ

和歌山東 RC 11月25日(木)

11月は「ロータリー財団月間」です

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ① 真実かどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深められるか
- ④ みんなのためになるかどうか



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

事務所 〒642-0002
海南市日方 1294 (海南商工会議所 4F)
TEL:073-483-0801 FAX:073-483-2266

7. 委員会報告

○ロータリー財団委員会 花田 宗弘 君
今月のロータリー特別月間は「ロータリー財団月間」です。皆さんのご理解とご寄付、ご協力をお願いします。

8. 米山記念奨学生

庄 秀 様



9. ゲスト卓話

海南省消防長 竹田 正樹 様

最初、あまりにも場違いな雰囲気とおもったので、断ろうかなと思ったんですが、田岡君に言われたら、そうゆうわけにもいかんと思いきや来ていただきました。また、ゆくゆくは市長にも来てもらいたいと聞いたので、これは先に行つとかなあかんとも思いました。



今日は、消防の現状ということで、課題等お話しします。慣れないことなので、お聞き苦しいとは思いますが、少しの間お付き合いください。

まず、新型コロナウイルス感染症対応についてお話しします。ニュースなどでは、医療関係機関や保健所、それから救急隊が大変なことになっていると報道されています。皆さんご心配してくれていると思います。最初にこの話をするのですが、医療機関や保健所は大変な思いをされていると思いますが、少なくとも海南省の救急隊はあまり困っていません。というのは、新型コロナウイルス患者の搬送もあります。幸いにも今までのところ受け入れ病院を決めてから保健所から依頼があるというパターンでやれていますので、事前に十分な感染防止対策を行ってから対応しています。都会のように受け入れ先が見つからず長時間感染のリスクにさらされるということは起こっていません。

先日、大阪市消防局の救急隊員の感染に関する情報提供がありました。大阪市消防局は、職員約3,500人で、第4波までの感染者は100人を超えていて、そのうち、救急業務により感染した可能性のあるのが16人居たということです。その原因を検証すると、16人すべて収容病院が決まらず、長時間患者と過ごしていた経験があるということです。その間に、気が緩む時間もあり、マスクを外したり、手で目を触ったりしたというような「思い当たるふし」があったといえます。

そうゆうことを聞いてみると、和歌山県は、基本

全員入院となっているので、救急隊としては他府県より恵まれていると感じます。ただ、実際搬送となったときは、感染防止対策として、すごい恰好で出動していますので、隊員は強いストレスを感じていると思います。出動しない人間が、ここでストレスやろな～と他人事のように喋っているのも後ろめたいので、コロナの話はこのくらいで、次に、現在の消防の課題についてお話しします。

消防の課題は、いろいろあるのですが、主には、消防の広域化と女性職員を増やすことあります。これは、海南省に限ったことではなく、全国的な問題で、総務省消防庁も積極的に推進している問題です。まず、女性職員のほうは、全国的に令和8度当初には5%となることを目指しています。というのも、同じような業種の警察官の女性割合は令和2年で10.2%、自衛隊は令和3年で7.4%あり、消防は平成27年時点で2.4%、令和2年で3.0%しかないため、この目標を設定したものです。そこで、海南省はどうかというと、職員92名中、女性は4名在籍して居ますので4.3%となり、小規模消防本部としては十分貢献しており、人数的な課題はクリアかなと思っています。ただ、女性用の施設が1ヶ所しかないなので、今後庁舎更新するときには、必ず女性施設を計画していきたいと思っています。

もうひとつは、消防の広域化ということになります。消防というのは、基本的に市町村の責務であると消防組織法で規定されているので、市町が運営することとなります。この辺りであれば和歌山市、海南省、有田市、紀美野町は各々単独でやっています。消防組織法ができたのが昭和23年です。この頃はおそらく火災のことを想定し、近所で起こった火事を地域で消すという考えであったものと考えます。(間違ってるかもしれませんが)。しかし、その後は、救急業務の高度化や、火災以外の災害への対応など、消防の業務がどんどん多くなってきてるとともに、消防車両や資器材もすごく高額になってます。さらに、緊急消防援助隊として他府県への応援出動も備えている状態です。

一方、市は人口減少とともに財政状況も厳しくなるばかりで、今後、市単独で消防を維持していけない時代がやってくるのではないかとされています。そこで、総務省消防庁は、平成6年頃から、複数の市町が共同して一つの消防本部を運営していくという消防の広域化を推進するようになりました。和歌山県でも平成20年に和歌山県消防広域化計画を作成し、県内17消防本部を5つのブロックに分け広域化の検討を行いました。すべて見送りとなり、今でほとんど進んでいません。消防の広域化は進んでいませんが、指令業務だけは、複数の消防本部で共同化を行って



ます。指令業務とは、119番通報を受け、各消防署に指令を出す部署で、情報の中枢を受け持つ部署です。海南市は、和歌山市と紀美野町、那賀消防と一緒に平成27年から指令業務の共同運用を行っています。これによって、この4つの消防本部の管轄で何が起きていることを指令センターで一括把握できるため、相互応援が非常にスムーズに行えるようになったこと、経費の削減につながっています。指令業務の共同運用は、ほかの地域でも始まっていて、橋本・高野・伊都消防で一つ、田辺・白浜で一つと計3ヶ所で実施しています。次の指令システムの更新時には、県内すべての消防本部が一つの指令センターを運用する県一の構想を持って現在勉強会を行っています。自分としては指令業務が県一となり、ゆくゆくは県で一つの消防本部ができればいいのではと考えています。

海南市では、毎年市民アンケートを行っています。道路の整備状況はどうかとか、子育てしやすい環境かどうかという内容です。その中に、「市の火災・救急搬送・救助の体制に満足している」という質問が出てきます。答えは、「そう思う」「やや思う」「あまり思わない」「まったく思わない」「わからない」の5つの中から選ぶ形式になっています。今年度は、「そう思う」と「やや思う」と答えてくれた人は54.1%でした。目標は60%なので、少し足りないという状況です。実は、そのアンケート今年うちの長男に届きました。長男は和歌山市でアパート暮らししていて家にいないので代わりに答えてあげました。市の職員が答えるのは違反なのかどうかわかりませんのでご内密をお願いします。そして、この質問が来た時「そう思う」にしようと思ったのですが、よくよく考えてみると何度も救急車など利用している人は別として、一般の市民が回答するときどう思うんやろうと考えたら、「わからない」と答えるのが普通やろうなと思いました。しかし私は、ちょっと遠慮して「やや思う」と答えたので、54.1%の1くらいになったのかなと思っています。これも不正？そこで、どうすればパーセンテージが上がるか考えたところ、普通、消防を利用する市民はごく少数で、利用したことがない人のほうが圧倒的に多いので、利用したことがない人にもどんな活動してるのか、どんなことに取り組んでいるのかをアピールする必要があるという結論に達した次第です。そこで、まず第一歩として、ホームページの強化を図ろうと考え、職員数人をホームページ担当に指名し始めたばかりです。さらに、このような場所で少しでも知ってもらう人を増やしたいと考え、冒頭いやいや来たみたいなことを言いましたが、本音は大変ありがたいと思ってます。ということで、消防業務で特に進歩したことを紹介したいと思います。

私が消防に入ったのが昭和59年で38年くらい前となります。4月に採用されるとすぐに消防学校へ入校し6ヶ月研修を行います。これは今も変わりませんが、当時はその6ヶ月の間の約1ヶ月救急の研修を受け、救急隊員の資格が与えられていました。

そして9月末に卒業、10月から配属され、すぐにも救急出動するというのが現状でした。当時は、担架さえしっかり持っていたらOKみたいなところもあったので、簡単に行けたのだと思います。現在は、最初の消防学校6ヶ月を終えたのち、別にまた2ヶ月救急だけの研修を受けて救急隊員の資格を得られます。その後、所属で十分訓練した後やっと救急出動することとなります。そうしなければ、最近では扱う機材も多く、救命処置の補助もしなくてはならないため簡単にはいきません。その簡単になくなった、言い換えれば進化したきっかけですが、平成3年の救急救命士法施行によるものです。

海南市が救急救命士の活動を開始したのは平成8年で、これを機に救急体制は飛躍的に進歩したと感じます。まずは資器材。心電計、除細動器、血圧計、輸液セット、なにより印象深かったのは聴診器であったのを覚えています。これらのものが、この頃から装備されるようになり、救命士による特定行為が行われるようになりました。しかし、当時は自分も乗っていましたが、特定行為、特に除細動を行うにはいくつもの手間がありもどかしい思いもありました。まず指示をもらう病院に電話し医師に説明後心電図を送りモニターを確認した医師が初めて指示を出すというようなことが必要でした。実際、除細動が必要な波形が出ているのに指示をもらう前に病院につくというようなこともありました。今ではその辺は改善され、波形確認後すぐに除細動できるようになっています。というのも、メディカルコントロール協議会というところで、医師を中心とした指示、検証、研修体制が確立され救命士の信頼度がアップしたことによります。救急救命士法は何度も改正され、現在救命士の行える特定行為も増え、今では、気管挿管、薬剤投与、心肺停止前の輸液、ブドウ糖投与までできるようになっています。救命士も、平成8年の1名からスタートし、現在25名が在籍、毎年病院実習を受けながら日々活躍しています。

次に2点目の進歩したと感じることです、それは、先ほども少し触れた指令業務のこととなります。昭和の時代、消防が田岡歯科の前にあった時のことです。119番の受付は、1階の小さな部屋で行っていました。それも、車が通る音がバンバン入ってくる道路のすぐ近くで、今では考えられないような場所にあったんやなああと回顧しています。（今は、外の音は入らない、関係者以外入室禁止、方角まで考慮している。）そこにあったのは、鉄製の箱に数個ボタンと黒い受話器が2個ついているだけの機械でした。119番が入り、光ったボタンを押すと通報者と会話ができます。というか、会話しかできない機械でした。それを通報者との会話だけで場所を聞き出していたことが懐かしく思い出します。その場所を消防隊や救急隊に伝えるのも口頭だけでやっていた。平成10年までそんな風にやってきました。ところが、平成11年に現在の庁舎ができた時から、指令システムというものが入り、指令業務に

パソコンが導入されました。そのシステムであれば、固定電話からの通報だと、聞かなくてもどこからかかっているかわかるようになり、相手と会話の途中でもパソコン操作により放送を流せるようになりました。現在でも基本は変わりませんが、平成 27 年からは、先ほどもお話ししたように、指令業務を共同で運用し、高機能指令システムを導入しています。共同運用し、一番進歩したのは、人ではないかと思っています。というのも、指令センターの職員は全員専属で指令業務以外の仕事はしていません。なので、専門性が進歩し適切な部隊運用が行えていると思っています。

進歩した面を 2 点紹介しましたが、なによりも変わったのが職員かなあと考えています。皆さんの所も感じることはないかと思うのですが、特に若い職員は、皆まじめで熱心で勉強家だなあと感じます。24 時間勤務していますと、夜ごはんの後などは、私たちの頃は自分から勉強をする職員はまったく居なかったと記憶しています。テレビを見る者、将棋をする者、バカ話をする者しかなかったんですが、いまの若い職員でテレビを見てる者は居ないし、夜中でも勉強してるし、休みの日でも自分のお金を出してまで研修を受ける職員まで居るのが現状です。今、救急以外の災害は減っています。若い職員は、現場が少なくなった分、知識、技術の習得にどん欲になっていると感じます。

今まで経験したことがない現場に遭遇した時、勇み足で命を落とすようなことがないことを願っています。

とりとめのない話となりましたが、時間となりましたので終わりにします。今後も、消防行政にご協力をお願いします。ありがとうございました。

10. 閉会点鐘

【次回例会】

11 月 15 日 (月) 12:30～ 海南商工会議所 4F
 ゲスト卓話 「戦略計画とロゴ」
 第 2640 地区パストガバナー 檜畑 直尚 様



ニコニコ・BOX

田岡 郁敏 君	竹田消防長	今日はよろしくお 願いします。
魚谷 幸司 君	竹田様	本日は卓話よろしくお 願いします。
宇恵 久視 君		〃
楠部 均 君		〃
中村 俊之 君		〃
森脇 節子 君	米山・ロータリー財団寄付の残 金です。	

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1 真実かどうか
- 2 みんなに公平か
- 3 好意と友情を深めるか
- 4 みんなのためになるかどうか

寄付を通じて財団月間を祝う

「ロータリー財団月間」である 11 月は、財団へのご寄付が世界各地での奉仕活動にいかに関与していただいているかを会員に伝えるのに最適な機会です。そのほかにも



以下の方法で財団を支援することができます：

「寄付の火曜日」(Giving Tuesday)である 11 月 30 日に、財団の年次基金(シェア)に寄付をする。昨年には、この日にロータリー会員から 80 万ドル以上のご寄付が寄せられました。動画メッセージをシェアする。

「ロータリーを支援し世界にプレゼントを」することで、世界中の地域社会にインパクトをもたらす。皆さまからのご寄付は、安全な飲み水のための浄水フィルタの提供や、ビジネス研修を通じた地元起業家のエンパワメントなど、持続可能な変化を生み出すために役立てられます。

四つの優先事項の実践方法を説明した新しいリソース

世界各地のロータリー会員が、ロータリー行動計画の四つの優先事項をさまざまな方法で実践しています。日本の愛知三州ロータリークラブは、デジタル時代とコロナ時代に適応するためにデジタルツールと柔軟な運営方法を取り入れています。ロータリーの新しい概要資料には、四つの優先事項とその実践方法が記載されています。概要資料をダウンロードし、会員とシェアしましょう。



2024 年までのロータリーの行動計画は、

優先事項 1

より大きなインパクトをもたらす

優先事項 2

参加者の基盤を広げる

優先事項 3

参加者の積極的なかわりを促す

優先事項 4

適応力を高める

世界を変える行動人